

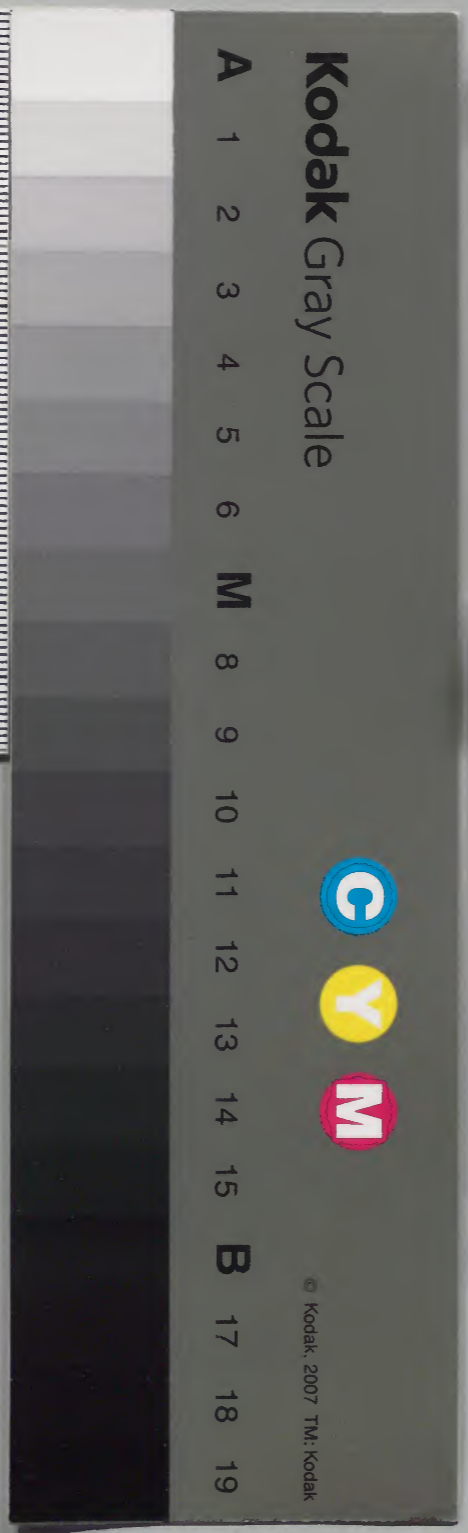
浪江入夢

平昭

| | | | | |
|------|------|-----|---|---|
| 和書門類 | 二七九一 | 一八七 | 一 | 五 |
| | 號 | 函 | 架 | 冊 |

| | | | | |
|------|-----|------|---|---|
| 內閣文庫 | 和書類 | 二七九一 | 五 | 九 |
| | | 號 | 冊 | 架 |

| | |
|------|-----------|
| 內閣文庫 | |
| 番號 | 和 27911 |
| 冊數 | 54 (53) |
| 函號 | 203 28 |





書初小節住居事

大尾公之孫紀伊吉来小節事

誦大ゆ殿与咩君中集事

自智君同之治事

小宰相君以伊都物治告大ゆ殿事

大ゆ系山中堂之次欲訪橋川事

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

多智

海舟君多智と云ふ一國の川の名を流下りともあり

多智といふ刻をいれりよ四ヶ所あり神山乃多智とい

てりしは多智と云ふ所の多智といふ事なり

のいふ事なり

多智といふ事なり

口の多智といふ事なり

と云ふ事なり

美志の多智といふ事なり

事なり

也それなり

多智といふ事なり

多智といふ事なり

六七氣うけり

乃盟目より

多智の多智といふ事なり

了法によ川なりなふし傍物さういひてはあつとん
まらんよりハッテあふりあつとんハッテいふとん
りり

北敵山三塔東塔西塔横川

おふり乃傍都と、惠心傍物凡遁世乃後法持横
川谷仍号横川傍物母事妹安娘尼事おふり
た、惠心大と又ハッテ乃事おふり
時代と云て云ハッテ横川おふり
信後傍物乃事おふり
心ハッテ乃事おふり
傍物乃事おふり

そ乃比ハッテ代と云て乃事傍物
ハッテ乃事傍物

傳記曰伴僧都者大和国葛城下郡人父者古部正
親母清原氏也母羞天人下授一女三女見畢覺後
四人去可成聖人歛思之其後彼母令祈請子息於
觀音張等之処夢中僧来令与一珠見畢不久懷妊
男子即惠心僧都是也成人之後有复縁登山出家
授戒修学之業既成論義决擇聞世被召公請預種
々祿畢為家初得物之間為令悦送其物於母之許
母返報云吾所送之物敢不悦所頼者偏遁世脩道
之管也云即随母命止諸縁隱居于横川谷修浄土
之業寛弘元年五月廿四日任権大僧都同日辞表
一期所修善根者念佛二十俱胝及轉大乘経五万

五千五百卷念阿弥陀大呪百万及尊勝陀羅尼此
万及于手陀羅尼七十万及佛眼不動光明真言不
違注進又所造書籍雖多其中往生要集三卷一乘
要集三卷殊勝宋朝明聖亦見往生要集權化所作
祇羨讚嘆寬弘二年十二月十日朝飲食如常淨身
口無所痛捕佛御手絲念佛數百反眠終給年七十
六而已

大和物語云何いりあはくもあらず世のいえと心と
いりあはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず
いりあはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず
いりあはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず

少くもありてはしむるもあらずいりあはくもあらず

信位信都の母長春の盡ありて信位をせしむる事あり
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず

信位信都の母長春の盡ありて信位をせしむる事あり
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず

信位信都の母長春の盡ありて信位をせしむる事あり
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず

信位信都の母長春の盡ありて信位をせしむる事あり
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず

信位信都の母長春の盡ありて信位をせしむる事あり
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず

信位信都の母長春の盡ありて信位をせしむる事あり
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず
さか子事あはくもあらずいりあはくもあらずいりあはくもあらず

僧約くいつりて

山にありて

小日山

惠心僧都妹安娘尼終焉之時者必可來會之由僧
都契約之而僧都于日山籠之間自尼詩示遣云老
病少渴罷成
今一度對面大切之雖然限
日數之山籠難出洛可然者乘輿可來會西坂本之
由返答平於下松田相待之處輿已到來僧都進寄
寮簾見之尼上既逝去相輿到清義房修學院清
義先心經七卷讀之次以火界呪加持之惠心又奉
念地藏則獲生古事談

半途

いりて物

たじくたわぬ人の

ら

加持加者佛三密也持者行者三業也三密と三業

わすれ

み

金峯山精進八後夜於庭前禮拜金峯山百度

け

け

持

い

か

な

古人尺云長神也然而中祓祀天一神有中央祀

より第本卷動身之

也

尼乃里少神あり

故朱雀院の御領より宇治の院より

平等院建立之前有宇治院所見可動身

李部王記天曆元年十一月三日太皇陽成院御
宇治院遊獵山野又天慶八年十月十八日朱雀院
宇多帝庄牧勘文云宇治院萱原庄被留後院

今案朱雀院ハ宣平法皇御也
朱雀院より記せり也

平朱雀院ハ朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

平朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

朱雀院ハ御領トありハ別ノ所也但

人まゝとて河らふらふ也

秘 物物云枕草子下らむと物云ふは月と御ふか

さへ流めくことと人たすらるる物日くれくと

さしわらるる籠め木の葉のいづるなすむくや記てこ

ふしれくさくさあつやのささるるいづる御縁

しりて物さす御縁あるひはれらら物らさこ

るりて御縁のわらけらるる人のいふあはらり

河海乃流志らるるいづるいづるいづるいづる

なり変化をらるるいづるいづるいづるいづる

いづるいづるいづるいづるいづるいづるいづる

いづるいづるいづるいづるいづるいづるいづる

いづるいづるいづるいづるいづるいづるいづる

いづるいづるいづるいづるいづるいづるいづる

私浦抄にきき月と河氣乃流志

奥に記也思ふもなくとありらるる也

阿闍梨二人乃門也

水鏡云欽明天皇次の國丁わら男くふりさ女は

とむとておへ向りし女野中より也いづる

さるれと毒りしと男子一人ありて月見

るるなり 秘 物物云枕草子下らむと物云ふは月と御ふか

さへ流めくことと人たすらるる物日くれくと

さしわらるる籠め木の葉のいづるなすむくや記てこ

ふしれくさくさあつやのささるるいづる御縁

しりて物さす御縁あるひはれらら物らさこ

るりて御縁のわらけらるる人のいふあはらり

帝王系圖云同河守三河国狐成人妻云

いしき事よの成らるるの事

幼者乃物と云るなりハ平生乃修習乃行とけ時
乃形より云々いひの事 秘

人より云々いひの事 秘

ひしき事よの成らるるの事 秘

ひしき事よの成らるるの事 秘

緝青鬼乃事とひりり 秘

金峯山乃行者 緝青鬼 棟本紀僧云々の事と下
心より云々いひの事 緝青正 真濟、惠亮、佛法乃下

しりて魔界に入也 何れも慈悲信正乃事なり得脱
しりて慈悲信正乃事なり得脱

真濟僧正乃事 見河より下なり 例がたなり

貞觀七年比凍殿皇后為天狗被惱稍經數月
所有驗僧侶無敢能降之者天狗放言云自非

三世諸佛出現者誰降我亦知我名云云妄相忘

和尚云召參入兩三日祇候無其驗還於本山奉

對無勤寺不動明王啓白事由慈悲恨祈請十時明

王背而向西和尚隨坐西亦背而向東和尚又隨

坐東亦背而如元向南和尚亦坐南流淚彈指誓

首和尚自而言相應奉我明王更無他念今有何

犯過相背如此乎願垂慈悲愍可告示云云胡脆合

掌奉念明王本誓合眼之間非妄非覺明王亦云

我依生々加護之本誓有難去之復令顯說其本

緣昔紀僧正真濟存生之日持我明呪而今以邪

執墮天狗道者着惱皇后為思本誓護彼天狗仍
以我呪難降彼天狗也以大威能呪加持者得結
縛之使飲云云此告之後不堪感淚頭面接足礼
拜恭敬後日依召參任明王教誡之旨奉加持之
同結縛天狗自今以後不可復來之由歸伏之後
解脫畢則皇后復尋常云云
或記云しし 佛の事なり皇后の事なり今峯山

私入水乃事あり

松平く日ありあり

六月乃事あり

あはれいひ

ほむれあり

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

いれいれ

あやうらむらむらと 夫人のまゝけいふたうせむひて

秘 あやうらむらむら

けいふ皆約め乃翁のくやせとえらむららあむら

に君乃翁丹とさしとさし

いふふらむらむらむらむらむら

くやせとえらむららあむららあむららあむら

秘 草花物とらむらむらむらむらむら

くやせとえらむららあむららあむららあむら

秘 上乃翁とらむらむらむらむらむら

くやせとえらむららあむららあむららあむら

秘 かくやせの物徳のさむらむらむらむらむら

いふふらむらむらむらむらむら

くやせとえらむららあむららあむららあむら

いふふらむらむらむらむらむら

いふふらむらむらむらむらむら

秘 傍乃乃母君とさし

しけめのおら君とらむらむらむらむら

秘 傍乃乃妹也乃母とさし

くやせとえらむららあむららあむららあむら

くやせとえらむららあむららあむららあむら

そのくやせとえらむららあむららあむららあむら

くやせとえらむららあむららあむららあむら

くやせとえらむららあむららあむららあむら

くやせとえらむららあむららあむららあむら

くやせとえらむららあむららあむららあむら

くやせとえらむららあむららあむららあむら

くやせとえらむららあむららあむららあむら

くやせとえらむららあむららあむららあむら

くやせとえらむららあむららあむららあむら

くやせとえらむららあむららあむららあむら

くやせとえらむららあむららあむららあむら

あつらひてやうりたりそころと船のすりのりるを
ぬくもとのまじりしむねのちたりけし田か
にともありるやうにみしむねのちたりけし
やうに

ひしむねのすしむね

花 常陸水くちりも也 舟 舟舟のちり

のり舟のちりも舟舟のちりせし舟舟のちり

花 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

舟 舟舟のちりも舟舟のちり

にきとつせんし君

中ゆの事なり信物あまなるいんじり

横川よかきしんらあまなりよ

よ川いあゆのこもりあひつるる

ちんらとひくわてやるる君

中ゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

中ゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

志あいやしくたりそ

ほゆあんりきりあまなりよ

多男たれん白た也

あゆとんやれ

中ゆの山はゆりもすりよりそきりあやあま

つこやりうもたれなるて

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

あゆと山はゆりもすりよりそきりあやあま

山崎の世に... 山崎の世に... 山崎の世に...

細い事あり... 道あるな... 山崎の世に...

山崎の世に... 山崎の世に... 山崎の世に...

山崎の世に... 山崎の世に... 山崎の世に...

山崎の世に... 山崎の世に... 山崎の世に...

山崎の世に... 山崎の世に... 山崎の世に...

山崎の世に... 山崎の世に... 山崎の世に...

山崎の世に... 山崎の世に... 山崎の世に...

山崎の世に... 山崎の世に... 山崎の世に...

山崎の世に... 山崎の世に... 山崎の世に...

山崎の世に... 山崎の世に... 山崎の世に...

山崎の世に... 山崎の世に... 山崎の世に...

山崎の世に... 山崎の世に... 山崎の世に...

山崎の世に... 山崎の世に... 山崎の世に...

山崎の世に... 山崎の世に... 山崎の世に...

山崎の世に... 山崎の世に... 山崎の世に...

わしわしし〜花よふ〜

あなれお〜花よふ〜

こころ〜花よふ〜

花よふ〜花よふ〜

花よふ〜花よふ〜

花よふ〜花よふ〜

花よふ〜花よふ〜

花よふ〜花よふ〜

花よふ〜花よふ〜

花よふ〜花よふ〜

花よふ〜花よふ〜

花よふ〜花よふ〜

花よふ〜花よふ〜

花よふ〜花よふ〜

花よふ〜花よふ〜

花よふ〜花よふ〜

花よふ〜花よふ〜

花よふ〜花よふ〜

秘 中物の廊へつり入りつ時の也
尼君乃内へ入つ時多かる君とんし也

私中物の入つ時の我れん也
凡乃さうしかりつ
かへつ乃極りい
じり君のきいつりつ

秘 昔人こよまきとまりあり
さうしつとすれとく
秘 尼君乃女の也

秘 中物乃心こ
その向あもいす

秘 中物乃心こ
その向あもいす

秘 中物の位のく
中物乃心こ

秘 中物乃心こ
その向あもいす

秘 中物乃心こ
その向あもいす

秘 中物乃心こ
その向あもいす

秘 中物乃心こ
その向あもいす

秘 中物乃心こ
その向あもいす

まの 對 井 中約ありまゝし 是は河海に隨ふは是れ
事しいつり又一人らつたれはとと入千地也
おやあふらま 中約ありまゝし 是れはとと入千地也
おやのまゝし 是れはとと入千地也

秘 尼君のわがまゝし 是れはとと入千地也

いふおとせとせおちとせおちとせおちと
和 尼君のわがまゝし 是れはとと入千地也

いふおとせとせおちとせおちと

中約ありまゝし 是れはとと入千地也
おやのまゝし 是れはとと入千地也

月見のまゝし 是れはとと入千地也
おやのまゝし 是れはとと入千地也

いふおとせとせおちとせおちと

故の人もおちとせおちとせおちと
おやのまゝし 是れはとと入千地也

おやのまゝし 是れはとと入千地也

おやのまゝし 是れはとと入千地也
おやのまゝし 是れはとと入千地也

おやのまゝし 是れはとと入千地也

おやのまゝし 是れはとと入千地也
おやのまゝし 是れはとと入千地也

おやのまゝし 是れはとと入千地也
おやのまゝし 是れはとと入千地也

おやのまゝし 是れはとと入千地也
おやのまゝし 是れはとと入千地也

おやのまゝし 是れはとと入千地也
おやのまゝし 是れはとと入千地也

よのしつちのり

法師のあつりよは能あつらふま

えしつ君のまをりしきま

福師の君はあつらふま

わつらふりうらふらわ 又中ぬのり

ひしつりりららららら

行香の物結ふま

私自余乃抄よら

りたふりてと

又のりりら

中ぬのりしつり

のり下ら

いしつりら

中ぬのりしつり

あつら

あつらふりしつり

あつらふりしつり

いしつりら

いしつりら

いしつりら

あつらふりしつり

あつらふりしつり

あつらふりしつり

あつらふりしつり

あつらふりしつり

あつらふりしつり

あつらふりしつり

あつらふりしつり

あつらふりしつり

あつらふりしつり

あつらふりしつり

何

兼書奇合下りさう妙紙さくわくし能く行りて
わりたのしとつり気先前見野文奇合判云わ
ゆきささしらぬやわんまきしきり人きん
馬輔下抄に云高集りりんさくさくあわさ
ちゆきささしらぬやわんまきしきり人きん
ゆめささしらぬやわんまきしきり人きん
いあやしきささしらぬやわんまきしきり人きん
ささしらぬやわんまきしきり人きん

秋の物なるよとわかれと中ねの
中ねの物なるよとわかれと中ねの
中ねの物なるよとわかれと中ねの
中ねの物なるよとわかれと中ねの

物なるよとわかれと中ねの

秋の物なるよとわかれと中ねの
中ねの物なるよとわかれと中ねの
中ねの物なるよとわかれと中ねの
中ねの物なるよとわかれと中ねの
中ねの物なるよとわかれと中ねの
中ねの物なるよとわかれと中ねの
中ねの物なるよとわかれと中ねの
中ねの物なるよとわかれと中ねの
中ねの物なるよとわかれと中ねの
中ねの物なるよとわかれと中ねの

中ね乃初也 秘 昔の川舟もさうもつりし

中 中 ありあふとの路 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

秘 中ね乃初と云ふ秘 秘 ことわりなるしつらふも

かえの神よりわす 花 尾花乃海の終りしうへの中ね

とじりしとあやとあや也 尾花乃海也
かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

返中ね

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

かえの神よりわすれとあやのや山のくまを尾花乃海

こころと今時とととと網也何と云々
其の通結也古今作者とととと
名と内及防河古原といつり
何と云々と名ありけしん
うつやの物何とととと
童女の通結とととと
これとととと

中納のらまこれとととと

こころと今時とととと

おとめの中納のらまこれとととと

音とととと

山とととと

いととととと

尾の何とととと

いととととと

おとめの中納のらまこれとととと

のさくらかりい海とととと

んれ 中納のらまこれとととと

中納のらまこれとととと

は嗟々倍人耳好今不好古所以北窓琴日々生塵

土 文集茶中吟

松風いいととととと

おとめの中納のらまこれとととと

おとめの中納のらまこれとととと

おとめの中納のらまこれとととと

おとめの中納のらまこれとととと

おとめの中納のらまこれとととと

おとめの中納のらまこれとととと

おとめの中納のらまこれとととと

は万夏家生皆捨離専心發願向西方

此のひやうしうらまひん 秘中物也

わすれ事とも 花中物の何なり

こららむとちりり 秘極楽浄土乃伎楽歌詠の事と意

さへゆらりやし 下り

秘 中物の事 秘 中物 秘 中物 秘 中物

いよ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

よ 秘 大なる氣 秘 大なる氣

月夜物
しらべ
あなはれ月夜物

あなはれ月夜物
あなはれ月夜物
あなはれ月夜物

あなはれ月夜物
あなはれ月夜物
あなはれ月夜物

あなはれ月夜物
あなはれ月夜物
あなはれ月夜物

あなはれ月夜物
あなはれ月夜物
あなはれ月夜物

あなはれ月夜物
あなはれ月夜物
あなはれ月夜物

あなはれ月夜物
あなはれ月夜物
あなはれ月夜物

あなはれ月夜物
あなはれ月夜物
あなはれ月夜物

あなはれ月夜物
あなはれ月夜物
あなはれ月夜物

あなはれ月夜物
あなはれ月夜物
あなはれ月夜物

あなはれ月夜物
あなはれ月夜物
あなはれ月夜物

あなはれ月夜物
あなはれ月夜物
あなはれ月夜物

あなはれ月夜物
あなはれ月夜物
あなはれ月夜物

あなはれ月夜物
あなはれ月夜物
あなはれ月夜物

あなはれ月夜物
あなはれ月夜物
あなはれ月夜物

あなはれ月夜物
あなはれ月夜物
あなはれ月夜物

鳥北のうらも 鳥北 鳥北乃女也

かあはぬ人ももるる かあはぬ 人をももるる

いよるる いよるる けしきもいよるる

うら うら けしきもいよるる

賽 賽 けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

鳥北 鳥北乃女也

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

いよ いよ けしきもいよるる

何川あり 花鳥も二つあり 白雲とていつかは
流いれり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり
ふいぢり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり

花鳥も二つあり 白雲とていつかは
但し流しとすれども ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり
私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり

二つあり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり
私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり

私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり
私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり

私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり
私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり

私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり
私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり

私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり
私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり

私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり
私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり

私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり
私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり

私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり
私にふり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり

日新しとるしとせんきせしとつりつらぬ
唯君少将の尼と暮とらふり唯君のえせし
ゆりゆけぬいふはつとつらぬ

いこまあはれし
ほあひ少ねあはれりもこのやめつとせ

又てなほしそ
たうへとつとせつらぬ
つらむ暮れいしつとつらぬ

傍約力も
いせのたつとつらぬ

暮替大佐 北前掾橋良利法名寛通 子圓暮好年也

備前掾板良利 北前國荻津郡大將人也出家名寛
運馬亭子院殿上法師 亨子法名山守

延長十三年五月三日
奉勅作式献之 抱朴子曰 圓暮者世謂之暮故蔽

子卿馬淳明有暮之名也 或書曰唐堯造 暮
教其子丹朱 一説曰不然其出於戰國之時

以上花箋 昇見河板良利也 抄みみり
いあゆいしけりか

いせのたつとつらぬ

いあゆいしけりか

いあゆいしけりか

いあゆいしけりか

いあゆいしけりか

いあゆいしけりか

いあゆいしけりか

毛詩曰白珪之玷尚可磨也
玷タノキ不明月之珠不能無瑕
只玉のさすものやうん也

若しノ況ぬ及り守め玉のこすしん
たりのいん事かかき

○心め、秋の夕とよる寝ともしる神よあそびたり
何事も分別さるるあはれ也

早下乃のあり 秋の夕ともしる寝ともしる神よ
と也それゆゑこそしる神よあはれ也

ひら又ありつる中ねかき けしき入りいん
あなうさこいあはれ也 自あはれ也

さよあふりこも 若むにた属つるものさぬ
いんさうりやもあはれ備ふり

○時節の感と松竹しあはれ也 手
あはれ事れあはれ也 花
にせぬあはれ也 花
若むつあはれ備ふり

はのりんすり也 若むに若しむあはれ也
あはれいんもひら夜のさしそ申すのよき也

○山さとり秋の夕たありれともしる寝ともしる神よ
中ねの事也 自あはれ也

下りつるいんも物あはれ也 自あはれ也
事りもあはれ也 若むに若しむあはれ也

いんもあはれ也 若むに若しむあはれ也
はのりんすり也 若むに若しむあはれ也

○心め、秋の夕とよる寝ともしる神よあそびたり
何事も分別さるるあはれ也

早下乃のあり 秋の夕ともしる寝ともしる神よ
と也それゆゑこそしる神よあはれ也

あつちとふとみらんすりしは
いとありしとぞ中ねあつち
いさゝか出ぬとぞたつち
いさゝか出ぬとぞたつち

けんていりもつちとぞ
のうらひり也

おののこも入つちり
おののこも入つちり
おののこも入つちり
おののこも入つちり

おののこも入つちり
おののこも入つちり
おののこも入つちり
おののこも入つちり

おののこも入つちり
おののこも入つちり
おののこも入つちり
おののこも入つちり

おののこも入つちり
おののこも入つちり
おののこも入つちり
おののこも入つちり

おののこも入つちり
おののこも入つちり
おののこも入つちり
おののこも入つちり

おののこも入つちり
おののこも入つちり
おののこも入つちり
おののこも入つちり

おののこも入つちり
おののこも入つちり
おののこも入つちり
おののこも入つちり

秘 尊也たりていひつる也

第 本乃品しりてけりていひつる也

こちおりのたの 尊也いひつる也

後 母山君してみとつていひつる也

こちせりいわりていひつる也

いひつる也

いひつる也

約基平山鳥のちりていひつる也

いひつる也

いひつる也

いひつる也

いひつる也

いひつる也

いひつる也

いひつる也

いひつる也

いひつる也

右のたより口位せぬ

秘 父帯乃也

いふの文のつぎ

秘 明石申宮也

いふにりいふ

秘 信約乃南月なり

いふしつとあひ

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

いふらんとも

秘 信約乃南月なり

一 けいぎのしほのまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに

つね下りんと 一の幾ッサねになきり也

申ひてさくみり 少ねにあり

三つ脚ののふねけいこと 傍のなるあり

傍のなる家の色也

杉やれいこたこあきりあり

父母のこを帰すあり

いんこもあきり 秘妙なり

母のこいする也あられり

えんひあつ病るるまねり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

あつ病るるのんむあられり

てかきひきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

ついでに 秘 ちかきしめりて 秘 ちかきしめりて 秘

くらの新ん

前

七幸まの也 傍約の御令より御也

心物あまの志を新んて 明ん申文の御

いとわや 希有事

傍約の約

うれんつせり

秘

并

傍約は母とんつせり

にとらるるを治

中東の夜へりて

大行方へりて

并

うらとせきく新んて

おらとせあつて

中東の心氣文といふと傍約の心へりて

ヤとあつて

その母ん

秘 女人 笑

とのよ侍つて

傍約の母の妹と云也

お家のりて

お家のりて

うらとせきく新んて

傍約の妹のた方りて

うせふ

中東の心氣文といふと

かくたりて

お家のりて

この宰相君と云ふ

笑

あつては合ふる事ありて

傍約の心

秘

傍約の心

うらとせきく新んて

秘

うらとせきく新んて

は 竜女成佛なり也 元

竜女成佛なり也 塔下 色何めとありぬと云

こ女女の心荒るは 塔下 女人成佛なり也

云ふもあつたも 女人成佛なり也

ほりうききしゆり人 女人成佛なり也

悪厚の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

戒の心 塔下 女人成佛なり也

美いそれあもてとわれ 後 中文字也

中文字乃御心也 後 中文字也

あ乃人あその為りすれと 小字 小字あ也

さうしうさうさう 小字 小字あ也

小字あめち作 小字 小字あ也

ひめ君とさうり 小字 小字あ也

しうさうさう 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

の 小字 小字あ也

あ 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

い 小字 小字あ也

いづれを女帝のまゝとありていづれを女
陵園妻といふハ命ハ紫のうすさうと
思の爲にさうもといふはさうハ命の
あつたなり

私凡陵園妻といふハありてハ帝皇崩
御所付その陵乃さうさうハ文はへ
てハ白氏文集

松門曉

可勘之

松門曉到月徘徊

白氏文集才四

陵園妻乃陵とほりてわたりけり
けりおろそなる

松門

松門ハ松乃木のありてり乃門なり

徘徊とハ月乃ありてり乃也
陵園乃宮女なり
君思りてわたりて後ハ陵園乃女
やわたりて

いづれを女帝のまゝとありていづれを女
陵園妻といふハ命ハ紫のうすさうと
思の爲にさうもといふはさうハ命の
あつたなり

いづれを女帝のまゝとありていづれを女
陵園妻といふハ命ハ紫のうすさうと
思の爲にさうもといふはさうハ命の
あつたなり

柏城盡日風葉瑟 白氏文集

山外乃

山外乃乃ハ松乃木とありてり乃也
松乃木とありてり乃也

瑟乃ハ松乃木とありてり乃也
松乃木とありてり乃也

出教乃ハ松乃木とありてり乃也
松乃木とありてり乃也

いづれを女帝のまゝとありていづれを女
陵園妻といふハ命ハ紫のうすさうと
思の爲にさうもといふはさうハ命の
あつたなり

いづれを女帝のまゝとありていづれを女
陵園妻といふハ命ハ紫のうすさうと
思の爲にさうもといふはさうハ命の
あつたなり

私呂端乃方也

予信約いしやうりぬと也

くろくちる物どよりりさぬすしこころ也

夏宿橋巻母谷の物とありきも同也

こねさ乃みらりハ 小野ハ本横川への道也

くろくちとつりハ 黒谷 敵山ハ

敵山ハメケノ別所とあり黒谷也乃ハ一所

私色ハ山門より隠遁乃也

みながきもといつこも 自らの家乃也

りららいと持りてく 自らの家乃也

心花もきんじん 秘かたりるものありてハ曲也

ある所ハけいもあられやうならんもそり也

いとゆありてつこくなら 秘中の何なり也

立ちり旅福也 自らの家乃也

私昔年ゆきさし母のやうに旅福也 一つ死

と云んと立ちりともえ 秘けあすり

本枯の吹しハ山のありハハもらうくろくちる物と也

自らの家乃也

私本枯乃吹しハ山麓の實乃也乃とせよ

くるハ夏渡もたしハ自らの家乃也

つる也

自らの家乃也

故々母ハ人のかたなり也

自らの家乃也

それとてめらり也

少わらた乃也

うすあひ父の也

自らの家乃也

すしりらとて

うんハ川への道也

自らの家乃也

橋乃とて

心ゆくらんぬいりて
おまゝのまゝとてさうり
いともつていりて
中ねのすかたのつらさ
あつたすわつた海一さ
私にまうものる意
くらまうものる意
死灰朽木のてくく
しとやれぬもの
お家さうり
しりたさうり
あつたすわつた海一さ
私にまうものる意
くらまうものる意
死灰朽木のてくく
しとやれぬもの
お家さうり
しりたさうり

おまゝのまゝとてさうり

いともつていりて

中ねのすかたのつらさ

あつたすわつた海一さ

私にまうものる意

くらまうものる意

死灰朽木のてくく

しとやれぬもの

お家さうり

しりたさうり

あつたすわつた海一さ

私にまうものる意

くらまうものる意

死灰朽木のてくく

しとやれぬもの

お家さうり

しりたさうり

あつたすわつた海一さ

私にまうものる意

くらまうものる意

死灰朽木のてくく

しとやれぬもの

お家さうり

しりたさうり

あつたすわつた海一さ

私にまうものる意

くらまうものる意

死灰朽木のてくく

しとやれぬもの

お家さうり

しりたさうり

又いづれに留りのちりて日なり

園りのちりて日なりいづれに大かき事なりけ
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくく

まのくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

紀伊のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

の料也

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

紀伊のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

わがしるのめいさ ながるるのめい

いふまの柳のまきとに南とを也

わがしるのめいさ ながるるのめい

いふまの柳のまきとに南とを也

わがしるのめいさ ながるるのめい

いふまの柳のまきとに南とを也

わがしるのめいさ ながるるのめい

いふまの柳のまきとに南とを也

わがしるのめいさ ながるるのめい

いふまの柳のまきとに南とを也

わがしるのめいさ ながるるのめい

いふまの柳のまきとに南とを也

わがしるのめいさ ながるるのめい

いふまの柳のまきとに南とを也

わがしるのめいさ ながるるのめい

いふまの柳のまきとに南とを也

わがしるのめいさ ながるるのめい

いふまの柳のまきとに南とを也

わがしるのめいさ ながるるのめい

いふまの柳のまきとに南とを也

わがしるのめいさ ながるるのめい

いふまの柳のまきとに南とを也

わがしるのめいさ ながるるのめい

いふまの柳のまきとに南とを也

わがしるのめいさ ながるるのめい

いふまの柳のまきとに南とを也

わがしるのめいさ ながるるのめい

いふまの柳のまきとに南とを也

わがしるのめいさ ながるるのめい

今更一とて

中道の細い道に

おる巻くとも

大君は舟の

しつぎに

道に

道に

道に

道に

道に

道に

道に

道に

道に

道に

道に

道に

くらゐいふくはりのり 秘 意ひくはりのり 秘

おの御も下りし 秘 意ひくはりのり 秘

小宰相 秘 意ひくはりのり 秘

それ 秘 意ひくはりのり 秘

おま 秘 意ひくはりのり 秘

おま 秘 意ひくはりのり 秘

おま 秘 意ひくはりのり 秘

おま 秘 意ひくはりのり 秘

おま 秘 意ひくはりのり 秘

おま 秘 意ひくはりのり 秘

おま 秘 意ひくはりのり 秘

おま 秘 意ひくはりのり 秘

おま 秘 意ひくはりのり 秘

おま 秘 意ひくはりのり 秘

おま 秘 意ひくはりのり 秘

おま 秘 意ひくはりのり 秘

おま 秘 意ひくはりのり 秘

と書き又しりありあり一編の

又書きしりありあり一編の

は中文の

つづの

甲して

こゝ

小卒お

わ

うれ

つ

つ

お

上

か

さ

さ

さ

さ

さ

さ

さ

の

冊

紙

紙

紙

紙

